



いとう



海援隊旗(二曳きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

前程 ZENTEI BANRI 万里

ここは館長の部屋

吉村大

令和4年度はコロナ禍の環境変化が3年目に入る中にもあつても、数年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークを迎えるなど、社会経済活動との両立を模索する年であつたかと思ひます。当館においても調査研究と企画展示、教育普及の各事業をほぼ計画どおりに実施しました。

4つの企画展示事業のうち、特別展「龍馬の師・勝海舟生誕二百年」展では、大村市歴史資料館や松阪市松浦武四郎記念館をはじめ多くの関係機関のご協力を得て、龍馬真筆の手紙や、国指定の重要文化財をはじめ、貴重な資料群を展示することができました。「龍馬脱藩」「龍馬七歳」「龍馬最後の帰郷」をテーマにした各企画展では、土佐の幕末史の内幕や真相に迫る展示をご紹介しますように思ひます。

当館に来館されたお客様の声から、県外からの来館者割合は8割台と推測されますので、令和4年度には当館の教育普及事業として、県内の児童生徒やファミリー層の皆様向けの企画を追加的に開催しました。そのうち、本年2月23日(木)〜26日(日)の飛び石連休を利用した「龍馬記念館で歴史の面白さを学ぼう」イベントでは、新館

と本館の展示を巡るクイズラリーやスタンブラリーのほか、龍馬足跡の紙芝居ムービーの上映や、オリジナル缶バッジづくりと、龍馬文字名刺づくりの各コーナーを設けました。このイベントには、県内からも数多くのご家族連れやグループのご来館をいただき、4日間の来館者数の合計は前年比4倍増の約2,500名で、期間中の当館の駐車場は県内ナンバーと県外ナンバーの車が5割ずつを占めていました。

翌3月の4日には桂浜公園のリニューアルが整い、グランドオープンを迎えましたので、当館でも同公園サイドと連携し、4日・5日にかけて「桂浜海のテラス OPEN! 関連企画」の館内イベントを実施しました。この両日には前年比5倍増の約2,000名の方々にご来館をいただきましたので、グランドオープンの賑わいづくりにつなげられたかと思ひます。

追加的に開催しました2月と3月のイベントでは、大人から子どもまでの皆様が、新館と、本館をぐるぐると回る光景が見受けられ、たいへん印象的でありました。本年度は、朝ドラ「らんまん」の放送効果も生かしながら、来館の感慨に浸っていただけるような展示と、イベントを続けていきたいと思ひます。

と本館の展示を巡るクイズラリーやスタンブラリーのほか、龍馬足跡の紙芝居ムービーの上映や、オリジナル缶バッジづくりと、龍馬文字名刺づくりの各コーナーを設けました。このイベントには、県内からも数多くのご家族連れやグループのご来館をいただき、4日間の来館者数の合計は前年比4倍増の約2,500名で、期間中の当館の駐車場は県内ナンバーと県外ナンバーの車が5割ずつを占めていました。

「龍馬の殿堂」として末長く愛される記念館へ

前号で紹介したように、県立坂本龍馬記念館の本館は「第22回 JIA 25 年賞」(JIA 公益財団法人日本建築家協会主宰)を受賞しました。そこで6月初め、建築家会館(東京都渋谷区)での表彰式に参加し、記念館と高知県(旧龍馬生誕150年記念事業実行委員会)に対する表彰状をいただきました。いづれ受賞レリーフが本館にはめ込まれ、顕彰の証を長く伝えていくこととなります。

「25年以上の長きにわたり、建築の存在価値を発揮し、美しく維持され、地域社会に貢献してきた建築」に対する同賞は、記念館の歴史のひとつとして、次代への道標となりました。設計者の高橋晶子さんはじめ関係の皆様にご厚く感謝と御礼を申し上げます。

初代小椋克己館長は本館の屋上で、太平洋の大海原を「これが記念館最後の『展示物』です」と指さし、2代目森健志郎館長は「これは、龍馬が見た海です」と両手を広げました。記念館活動は本館を舞台に「龍馬の入口」から、「龍馬の殿堂」へと進化し続けてきました。その礎をもとに5年余り前に新館を加えた2館体制となつて更なる進化へと向かっているところです。

出会うの海へ

さて、「飛騰49号」(2004年5月発行)で、私は「出会うの海へ」と題して、同年4月の記念館着任挨拶をさせていただきました。坂本龍馬という、物心ついた頃から身近にいる人であり、土佐人の代表ともいえる人物に関わる仕事への畏敬の念がありました。龍馬を愛してやまない、また長く研究される方々はじめ、どれだけ多くの出会いが待っているのだろうという不安と期待もありました。まさに記念館の南に広がる太平洋のように茫漠とした思いでした。

それから19年3ヶ月。実に多くの方たちと出会い、多くの事柄を刻むことができました。20年近い歳月の中でたくさん学びを得た私は、6月末を持って記念館を退職となりました。しかし、人生は途切れることなく続き、出会うの海はつながっていきます。人生の大きな指標となつた坂本龍馬とともにこれからも進みます。心よりありがとうございました。

前田 由紀枝



「第22回 JIA 25 年賞」表彰状

特別展「花と歴史の爛漫土佐」

第1部「桂浜シン発見ー浦戸湾歴史探訪」番外編「浦戸湾拾遺物語」

浦戸湾と桂浜の歴史やエピソードをめぐる特別展「花と歴史の爛漫土佐」第1部「桂浜シン発見ー浦戸湾歴史探訪」は7月2日で会期を終えました。「土佐日記」や「サン・フェリペ号事件」など教科書にも載るような大きな出来事から、浦戸湾各地の珠玉の歴史エピソードを様々な資料で紹介をしました。展示資料は、すべて県内の博物館をはじめ、図書館や学校、個人の方がお持ちの貴重なものばかりですが、なかなか普段目にする機会の少ないものばかり。「こんな資料が県内にあったんですか」と驚かれる方もいらっしゃいました。

展示の準備をするなかで、気になる場所、紹介したい逸話はたくさんあったのですが、スペースの関係でやむをえず割愛したいくつかについて、この「飛騰」の紙面でご紹介したいと思います。

浦戸の津波記念碑

安政の大地震が土佐を襲ったのは安政元年のこと。その時の様子は様々な史料に記録が残され、伝わっています。この浦戸にも、よく知られる「津波記念碑」があります。浦戸大橋の橋脚近くの稲荷神社は、長宗我部氏ゆかりの古い神社ですが、ここに安政地震で倒壊した鳥

居を用いた碑が立っています。津波の恐ろしさを今に伝える、歴史の証人です。

孕のジャン

寺田寅彦が「怪異考」というエッセイで紹介した「孕のジャン」。ジャンは、いわゆる「ジャン」の擬音語であり、浦戸湾の孕付近の海から突然轟音が鳴り響く怪現象をさします。寅彦は、この現象を地殻変動で生じる地鳴りと考えています。孕の地形は「何人も疑う余地のないほど明瞭な地殻の割れ目である。すなわち東西に走る連山が南北に走る断層線で中断されたもの」（「怪異考」より）であり、宝永、安政地震のころには、小規模の地殻変動が頻繁に起こり、多くの人が体感することとなったが、昭和の初めにはそうした活動もなくなったのではないかと推測しています。



孕遠景

「海の県道」と浦戸大橋

種崎を描いた絵画や古地図には、現在の県立千松公園にあたる松林や貴船神社などが描き込まれ、それらは昔から地域のランドマーク的存在であったことがわかります。この付近には、約50年前に浦戸大橋が架橋され、景色とともに、対岸同士の往來の利便性も大きく変わりました。

その大橋の下、「海の県道・県営渡船」が運航されていることはあまり知られていないようです。歩き遍路や自転車の方などがよく利用されています。船に揺られる時間はわずかですが、ちょっとした気分を味わえます。想像力をフル稼働させると、紀貫之の気持ちをおもしろく味わえる（かもしれない）「浦戸湾マイクロ・クルーズ」です。（県営渡船は、乗船料無料、予約不要ですが、便数が少ないのでご注意ください。）

衣ヶ島

浦戸湾内のツツキ島、ナガツツキ島、玉島の3島からなる衣ヶ島は、まことに美しい景色です。

車の往來が激しい県道から小道に入り、どンドン進んでいくと、や



河村章代

がて赤い小さい橋が見えてきます。そこを渡るとツツキ島です。仁井田神社がよく知られていますが、実は、鎮若宮八幡宮というお宮があります。説明版によると、源頼朝の弟、源希義をお祀りしているそうですが、元あった別の場所から遷宮されたそうです。怨霊鎮めのために、何かを鎮めた…、だから、「鎮若宮」…。昨年は、鎌倉幕府のドラマが話題になりましたが、高知にも鎌倉殿ゆかりの神社があったのですね。

高知市の自然保護地になっており、県道から少し入っただけなのに、驚くほど豊かな自然が残っています。

第2部は、坂本龍馬像建立の逸話を紹介

「月と龍馬の桂浜―坂本龍馬像物語」7月15日(土)～10月1日(日)

高知といえば坂本龍馬。そして、坂本龍馬といえば、高知県を代表する観光地・桂浜の「坂本龍馬像」ではないでしょうか。龍馬像を撮影する方、その前で記念撮影をされる方、龍馬さんと心の中で向き合おう方：いつも多くの方で賑わっています。

この「坂本龍馬像」は多くの方の寄付や厚意で建立されたことをご存じでしょうか。

大正時代の終わり、当時早稲田大学の学生であった入交好保氏(南国市出身)をはじめとする4人の若者が、「坂本龍馬像」をつくることを決意しました。しかし、学生たちだけでは、なかなか資金が集まらなかったため、「土佐の交通王」といわれた野村茂久馬氏(安芸郡奈半利町出身)に建設会の会長に就任をしていただくことで、だんだんと寄付も集まり始めたそうです。同氏も、学生たちが移動するときに自分の会社である野村自動車に乗るときの便宜をはかり、フリーパスを渡すなどの協力を惜しまなかったそうです。

また、かつて陸援隊副隊長であり、宮内大臣をつとめたこともあ

る田中光顕氏(高岡郡佐川町出身)も協力し、皇室から御下賜金をいただけるように尽力してくれたのです。

銅像を制作したのは、すでに多くの偉人たちの銅像をつくっていた本山人白雲氏(宿毛市出身)。白雲は高村光雲氏(詩人・高村光太郎の父)の弟子で、光雲が上野公園の西郷隆盛像を制作するときには助手として関わったこともありま

す。そうして、昭和3年5月27日の海軍記念日に除幕式が挙行されました。除幕式には齢九十の光顕も登壇し、挨拶を行ったということです。以来約1世紀にわたる桂浜のシンボルとして立ち続けてきました。

特別展第2部では、坂本龍馬像建立にまつわる逸話や除幕式があった昭和3年前後の日本の様子も紹介します。

特別展を見てから龍馬像を見るか、龍馬像を見てから特別展を見るか？

ぜひ、特別展も龍馬像も両方お楽しみください。

河村章代



本山人白雲「坂本龍馬像原型」(個人蔵)



本山人白雲「坂本龍馬像」(桂浜)



好評の連続講演会

今年度のラインナップ発表！

【令和4年度】〈武士の時代を考えるーその制度・精神・象徴ー〉

毎年ご好評をいただいている連続講演会は令和4年度も無事に5回の講演会を終えることができました。令和2,3年度はともに新型コロナウイルス感染症の流行にともない、それぞれ開催できない回がそれぞれ1回ありましたが、令和4年度は5回すべて開催することができました。

令和4年度は「武士の時代を考える-その制度・精神・象徴-」と題し、「武士」をテーマに開催しました。武士とは何か？という大きなテーマから、将軍と大名の関係、藩士の生活、武士と帯刀、障壁画を中心に武家の空間・・・とバラエティに富んだ内容の講演会を行うことができました。「武士」とは何か、「武士」を象るものは何か。「武士」のありようについて、江戸後期を中心に、身分制や精神性、象徴性など様々な観点から迫ってみるという試みでした。

どの先生も、詳しいレジュメや図版等のスライドをご準備くださり、わかりやすいとご好評をいただきました。

		講師・肩書 *敬称略	演題
1	6月18日(土)	笠谷和比古(国際日本文化研究センター名誉教授)	武士と武士道の歴史
2	8月27日(土)	原 史彦(名古屋城調査研究センター主査)	徳川将軍と大名
3	10月29日(土)	森下徹(山口大学教育学部大学院担当教授)	武士の身分-萩藩の場合
4	12月17日(土)	尾脇秀和(神戸大学経済経営研究所研究員、花園大学・佛光大学非常勤講師)	武士と帯刀
5	令和5年2月25日(土)	尾本師子(高知県立高知城歴史博物館主任学芸員)	武家の空間-御用絵師について

【令和5年度】〈さまざまな立場からみる幕末の京都〉

さて、今年度の連続講演会のテーマは(今まで、ありそうでなかった)「幕末の京都」です。京都は794年からずっと、都があった地ですが、どの時代も中心地であったわけではないものの、激動の幕末期、京都は再び表舞台となります。龍馬をはじめ、幕府や雄藩はもとより、様々な人々が集い、活躍したのも京都でした。

開国を巡る勅許の問題、不穏になっていく社会情勢に対応するための治安組織、江戸には存在しない公家という存在、各藩の藩邸の動き・・・幕末の京都を様々な視点から考えてみたいと思います。

		講師・肩書 *敬称略	講演テーマ
1	7月8日(土)	笹部昌利(京都産業大学教授)	幕末の京都の社会情勢
2	8月19日(土)	木村武仁(霊山歴史館学芸課長)	幕末京都の治安(新選組)
3	10月28日(土)	上村香乃(当館学芸員)	幕府高官「京都所司代」再考
4	12月9日(土)	重岡伸泰(岩倉具視幽棲旧宅主任学芸員)	岩倉具視と幕末の公家社会
5	令和6年2月24日(土)	笹川尚紀(京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター助教)	出土遺物からみる土佐藩白川邸

【お知らせ】

定員 コロナ対策で定員を50人に減らしていたのを、70人に増やします。

お申し込み方法 お申し込みは、「開催月の前月1日の午前9時から」です。お電話のほか、FAX、メール、ホームページのお申し込みフォームでお申し込みください。

関連図書の販売 講師の著書や講演内容をより深く知るための参考図書の販売を行う場合があります。本館ミュージアムショップのほか、会場でも販売することもあります。*会場では現金のみのお取り扱いとなりますので、ご注意ください。

録画配信 講師の承諾をいただけた場合のみ、録画した講演内容をオンライン配信します(Youtube)。配信後、約2週間の限定公開となります。

河村 章代

新職員紹介



上村 香乃

4月1日付で高知県立坂本龍馬記念館の学芸員となりました上村と申します。

私の歴史学への道は、小学生の頃にとある児童文学で出会った坂本龍馬から始まりました。なけなしのお小遣いを握りしめ、本屋で龍馬の伝記を手にした日の記憶は今でも鮮明に残っており、このような私の原点でもある人物の顕彰を掲げる当館で働けることを大変嬉しく思っております。

学芸員としてまだまだ未熟者ではございますが、龍馬は勿論、土佐の歴史も深く学び、地域社会に貢献できるよう努めてまいりますので、宜しくお願いたします。



谷本 弥生

この度、坂本龍馬記念館で勤務する事になりました谷本弥生と申します。人と人とのつながりを大事にされていた龍馬さん。私も龍馬さんのように来館されるお客様との繋がりを大切に。高知に、記念館に来て良かったと思って頂けるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



米澤まどか

4月より龍馬記念館に勤務しております。歴史好きの私にとって願ってもない職場で、改めて坂本龍馬の人柄や偉業を知る機会を得、日々勉強の毎日です。

国内外からの大勢のお客様を明るく笑顔でお迎えできたらと思っています。

どうぞよろしくお願いたします。

龍馬の手紙

19

此者かありてハ徳川氏の御為にならぬと申てせひ殺よふとの事の上し

(慶応二年十二月四日付坂本権平・一同宛)

この書状は、一年の記録や龍馬の考えなどが数多く記された貴重な史料である。中でも、寺田屋襲撃の背景に言及している点において、非常に意義深いものではないだろうか。

現在、実行者は伏見奉行の捕吏とされているが、その背景には未だ謎が多く残されたままである。そのため、ここではその背景について、幕府の機構と職制の観点から一考を試みたい。

注目するのは、捕縛命令は「大坂より申来りしとの事」、「幕府大目付某か伏見奉行へ申来」っていた点である。これは「一体どういうことか。まず、大坂町奉行と伏見奉行について、前者は摂河泉播の四か国を、後者は伏見町及び町付き直轄領を管轄していたことを確認しておく。そして、いずれもその効力は管轄内でのみ発揮され、独断で他領域に及ぶことはなかった。

次に、大目付が伝達した点について確認する。大目付は幕府の評議機関である評定所の構成員であったが、評議は寺社奉行・勘定奉行・江戸の町奉行の評定所二座が中心となっ

ていた。立ち合いこそしたものの、老中諸問に答えるのはあくまでも三奉行であり、幕末期において大目付の主要な役割は布達であった。

以上の事実に加え、幕府の密偵に目をつけられ大坂町奉行に報告されるなど幕府が既に龍馬の動向を追っていたことも踏まえると、捕縛命令は江戸で何らかの評議を経、龍馬の居所と推測される地域を管轄している遠国奉行に大目付の内の一人が伝達したと考えられるのではないかと。

なお、当時の大坂町奉行の内、東の井上備後守は勝手方勘定奉行を兼任していた事実も見逃せない。基本的に評定所一座は勝手方だけでなく公事方を指すが、襲撃の同月十五日には井上と同じく勝手方勘定奉行小栗下総守、大坂西町奉行松平大隅守と共に御座所に召出されていたことがわかっていく。御用の内容は不明であるが、いずれにしても江戸での評議に関わる勘定奉行を兼任していた大坂町奉行が本件に関わっていたことは非常に興味深い。

上村 香乃



Q&A

No.4

当館や高知観光などについて日常寄せられるさまざまな質問と、その答えを職員がリレーでご紹介します。

お食事処のご案内

Q. 桂浜周辺でお食事処はありますか？

A. はい、近隣にいくつかございます。

旅に食事はつきものですが、旅先で、何時、どこで食事をとるか、交通手段は？など、皆様、一度は悩まれるのではないのでしょうか。市内中心部であれば、悩まずに済むことも、郊外となればお店の数も限られますし切実です。当館に来られるお客様からお食事処に関するご質問は少なからずお受けします。地元で聞けば、美味しいお店を聞けるかも！と尋ねられるお客様もいらっしゃいます。幸い、当館近隣には、いくつかお食事処がございます。お車はもちろんのこと、徒歩や自転車でも行っていただけます。

右記にてご紹介いたします。なお、お店の情報は随時更新されますので、お越しの際は、ぜひ、お店のHPを検索、または、お電話にてお問合せください。



【桂浜公園内のお食事処】当館からの交通手段：お車、自転車、徒歩

◆うみさち 桂浜本店(魚貝専門のお店)

☎10:00~17:30(オーダーストップ 17:00)

◆マンテンノホシ桂浜店(焙じ茶専門店。カレーなどもあるお店)

☎9:00~17:00

◆桂浜美術館 神(饅頭のたつきあかうしなどのお食事やラーメンのお店)

☎10:00~18:00

◆Sea breeze Café Bellmare(サンドウィッチなど軽食のお店)

☎8:30~17:30

◆テンカフェ広場(高知の食材を使用した軽食のお店)

☎平日10:00~17:30、土日祝9:00~17:30

(どの曜日もオーダーストップ17:00)

上戸 有里

出来心で居合を始めて4年になる。自分でも驚いている。何より刀が怖い。近年盛り上がりつつある刀剣ブームの理由を考えていて、突然「刀を実際に使ってみれば分かるのでは」と思い立った。以来、稽古には足撃く通っている。刀と共に歩む後半生が待っているなど予想もしなかった。

筆者が教えを乞うているのは無双直伝英信流といい、江戸時代の土佐で栄え、多くの遣い手を生んだ。民権家の片岡健吉や細川義昌、龍馬の義兄の高松順蔵がこの流派を修めている。細川義昌が県外に技を伝え、現在では夢想神伝流という流派が新たに生まれている。英信流と神伝流は現代居合における二大流派だが、いずれもルーツが高知にあることを高知県民の大半は知らない。ちなみに高知県の居合人口は100人ほど、筆者の所属する全日本剣道連盟居合道部会の有段者は全国に9万6千人、剣道の有段者199万7千人（令和5年3月末現在、全日本剣道連盟HPより）に比べれば格段に少ない。

筆者の唐突な思いつきは当たったようで、習い始めてすぐに思いがけない手応えがあった。これまで単なる知識であったものが、刀（まだ模造刀）を握ることで血流のように体中

を巡り始めたような感覚である。例えば諸説ある龍馬暗殺、現場の状況など情報として得た上で刀を手にすると、「刀を持つ者」の視点や思考が得られる。龍馬を襲った人物は命じられるのみで、相手がどの何者かは知らないし知る必要もない。それよりも命令を確実に遂行するため、相手の剣の腕前や刀以外の武器を持っているか、どういう反撃を受けられる可能性があるかを事前に知っておくことの方がよほど重要である。

暗殺の前年、龍馬は寺田屋で奉行所の捕吏に襲われ、ピストルを撃つて辛くも逃げ延びた。この一件で龍馬がピストルを持っていることを暗殺者も知り得たとして、最も警戒すべきはいきなりピストルで撃たれることである。従って、真っ先にピストルを持つ者（この場合は龍馬本人）を特定、斬つて発砲できないようにしておく。同席者がいた場合、相手の人数や剣の腕前にもよるが、ピストルが龍馬の1挺だけなら討ち手の多さでカバーできる。龍馬の懐にあったピストルは、寺田屋での成功体験によって龍馬を過信、油断させ、暗殺者の刀を真っ先に、集中的に龍馬に向けさせる要因となってしまった。暗殺の背景には政治的な理由もあろうが、龍馬の死因の第1は「ピストルを持っていたこと」に尽きるのではないかと思っている（以上は暗殺者が筆者ならば、というあくまで私見）。も

し刀で戦っていれば難を逃れた確証は全くないが、少なくとも狭い室内では銃より刀の方がはるかに有利である。若き日にあれほど熱心に剣術修行に励んだ龍馬にしては残念な最期だ。

居合を習い始めて気づいたことは他にもある。日本人が刀を敬い大切にしている理由には「武士道」が深く関係しているのではないかとこのもそのひとつ。武士は嘘を言わず、潔く、勇敢で、主君の命や名誉を守るために我が身を惜しまない。これらは理想であり必ずしも実像ではないが、そこには私たちが武士や武士道に対して抱く美しいイメージが多分に反映されている。武士は文字通り刀に命を預け、その刀で主君を守り、また自らの腹を切る。現代の人々が刀に特別な思いを寄せるのは、武士が命がけで武士道を行使するための重要な道具が刀であったから、というのが、筆者の思う仮説のひとつである。他にも刀そのものが持つ歴史や美しさなど、刀には人を惹きつけるさまざまな魅力がある。実に奥深い。

冒頭で「刀が怖い」と書



筆者がお世話になっている誠之館の稽古風景。近年の入門者は女性の方が多い。

いた。よく切れる長い刃物、しかも文献が専門でさほど触り慣れていない。稽古に足繁く通えているのは「怖い」より「知りたい」が勝っているためだ。しかし、最近では展示してある刀をみて「ちよつと差してみたい」と思うようになった。こんな自分に自分でも驚く。勿論、学芸員が大切な資料である刀を展示や手入れ以外の目的で手にすることは決してない。居合は真剣を持つてからが本番、その日に向けて精進の毎日である。

ミュージアムショップ便り

本館出口に位置するミュージアムショップでは、龍馬に関する様々なグッズを始め、年間を通して開催される講演会や企画展関連の商品等を揃えて皆様をお待ちしております。数ある商品の中から今回は、春のやさしい日差しから一転、そろそろ梅雨や蒸し暑さがやって来る季節になってまいりました。そんな暑さの中でも、快適に過ごせる個性豊かなお役立ち商品2点をご紹介します。

「坂本龍馬記念館オリジナルTシャツ」

2006年の発売以来、色と柄を変えながら販売されている、龍馬記念館オリジナルTシャツ。

色は、チャコールグレー、バーガンディー、ブラックの3色。柄は、海をテーマにした「いろは丸」（フロントデザイン）と、龍馬が夢見た世界をテーマに創られた「日本地図」（バックデザイン）の2柄。サイズはM、L、XLのみ。左袖には、記念館のロゴマークの刺繍入り。長く愛用できるように、丈夫なTシャツ生地を使用しております。

汗をかいてしまうこれからの季節、綿100%でお肌にも優しい素材は、着替えとしても活躍します。実際ショップで購入し着替えていかれる方もいらっしゃいます。

私も長年愛用しており、これを着て接客しております。ここでしか買えない限定品です。

人気のある商品なので、ご希望の色やサイズがない場合もございますが、ぜひお気に入りの一枚を見つけてみて下さい！



龍馬Tシャツ
(日本地図・バックデザイン・チャコールグレー) /
(いろは丸・フロントデザイン・バーガンディー、ブラック)
サイズはM、L、XL
価格は 2,500円(税込)

「海・万・龍グラス」

こちらのグラスは、龍馬の良く知られた肖像と直筆（写し）を彫刻しており、職人が1つずつ丁寧な技を駆使して手掛けた下町切子です。下町切子とはサンドブラストという手法で高圧の空気で砂を吹き付け彫刻加工をした逸品で下絵次第で細やかな線や点も表現できるもので、その名の通りに、親しみやすい低価格と凹凸のある独特の彫刻が特徴です。

坂本龍馬、ジョン万次郎、勝海舟が刻まれた出来栄えは、模様を見るだけで制作過程に手の掛かる様子がうかがえ、ガラス製品の繊細な素材の持ち味を生かした納得の商品です。

手に取ってみると分かる重厚さに、美味しいお酒が進んでしまうかもしれません。もちろん氷をいっぱいにしたグラスに、冷たい麦茶を注いで、乾いた喉を潤すにも最適です。

大人から子供まで様々な用途でご利用いただけ、プレゼントとして渡せるように桐箱入りの包装済み商品です。偉人達の刻まれたグラスで頂くと、一味違った味がするかもしれませんね。



坂本龍馬グラス・ジョン万次郎グラス・勝海舟グラス
価格は 各2,000円(税込)

渡辺 曜子

■「牧野博士ゆかりの地」

本館「海のみえる・ぎやうらい」では4月28日からの特別展「花と歴史の爛漫土佐第1部「桂浜シン発見一浦戸湾歴史探訪」開幕にあわせ、「牧野博士ゆかりの地」をご紹介します。牧野博士の俳句とともに高知県の大きな地図で、10市町村のゆかりの地をご紹介します。

それぞれの土地と牧野博士のエピソードや植物をパネルで紹介しています。牧野博士が活躍した時代は高速道路もなく、鉄道や道路事情も今ほど伸展はしていなかったはずですが、遠い地にも植物研究のために赴かれていたことに頭が下がります。

いつもは、龍馬や史跡めぐりなどのパネルを展示することが多い「海のみえる・ぎやうらい」ですが、今回は少し趣きが変わりましたね、という職員の声も聞こえます。

この機会に、牧野博士の足跡をたどりながら、高知県の豊かな自然を味わっていただければうれしいです。



【ご紹介している牧野博士ゆかりの地と植物】

市町村名	博士ゆかりの場所、見どころなど	植物
仁淀川町	仁淀川(仁淀ブルー)、黒滝山、鳥形山	ヤマトグサ、クロタキカズラ、トリガタハンショウヅル
越知町	横倉山、越知町立横倉山自然の森博物館	ジョウロウホトトギス、ヨコグラノキ
佐川町	牧野公園、金峰神社	バイカオウレン、桜、山野草
馬路村	千本山(日本三大美林)、森林鉄道	魚梁瀬杉
大月町	柏島	ソナレノギク、月光桜
土佐清水市	足摺岬	ヤッコソウ
三原村	星ヶ丘公園、今ノ山	トサムラサキ、ヒメノボタン
高知市	県立牧野植物園	四季折々3000種以上の草花
安芸市	伊尾木洞	ハウシヒダ、ハウライシダ
室戸市	室戸岬	アコウ、ノジギク、ハマアザミ

(本展示には、県観光政策課と県立牧野植物園のご協力、ご指導をいただきました。)

河村 章代

入館状況

2023年6月20日現在

(1991年11月15日開館以来 31年218日)

◆入館者数 4,553,820人

■リニューアルオープン(2018年4月21日)以来 617,060人

編集後記

長らく私たちを苦しめてきた新型コロナウイルスも、5月8日に5類感染症へと移行しました。当館の入館者もひとこほに比べればだいぶ増えてきています。今年はよさこい祭りも通常開催、牧野富太郎博士をモデルとしたドラマ「らんまん」とも相まって、久しぶりに賑やかな夏となりそうです。

7月15日から始まる「花と歴史の爛漫土佐」第2部は、桂浜に立つ龍馬像についての展示です。昭和3(1928)年に建てられた龍馬像は、昭和63(1988)年、還暦の時に作家の司馬遼太郎さんからお祝いのメッセージをもらいました。あと4年で白寿(99歳)、5年で百寿(100歳)となりますが、さて次はどんなお祝いをしてもらえるのでしょうか。(か)

館だより“飛騰”第126号(年4回発行)表紙題字：書家 沢田 明子氏

発行日 2023(令和5)年7月1日

発行 公益財団法人高知県文化財団

高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015

http://www.ryoma-kinenkan.jp

「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円(企画展開催時700円)

高校生以下無料

高知県・高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料



「飛騰」は郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は120円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください。

〒781-0262 高知市浦戸城山830 高知県立坂本龍馬記念館「飛騰」購読係 まで